2021年度　但馬地区報告（研究大会）

１　内　　容　新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、研究大会を中止し、研究冊誌による誌上発表に決定した。

　　　　　　　感染防止対策を講じ、市内担当者会や地区の理事会を開催し、研究大会の持ち方や研究大会に向けての取組を行った。研究大会も当初は昨年度より延期の形をとり、但馬地域での公開を予定していたが、感染拡大により中止とした。

　　　　　　　講師は、神戸女子大学の久野和子先生を招聘し、講演をお願いしており、図書館の新しい取組など、講演を通して、指導力の向上を図るねらいであった。講演の代わりに冊誌への寄稿をお願いし、講演の代替とした。

　　　　　　　研究大会の主題と趣旨

　　　　　　　１　研究主題　　「主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館の在り方」

　　　　　　　２　研究大会趣旨

　　　　　　　　「こころ豊かで自立する人づくり」を基本理念とした第３期「ひょうご教育創造プラン」において、読書活動が子どもたちに生きる力を育む上で大変重要な位置を占めている。学校では、言語活動の充実を図る学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等における学校図書館の活用の拡大や発達段階に応じた体系的な読書指導の推進が求められている。こうした読書活動は、生涯にわたって絶えず自ら学ぶ意欲や習慣を身につけることにつながる。子どもたちが読書を楽しみ、未知の世界や人生の扉をひらいて、豊かな人生を歩んでいけることを願っている。本大会では、２０１６年度の全国大会（神戸大会）の趣旨を引き継ぎ、主体的な学習活動を支援する拠点となるような「学校図書館の在り方」を求めて、学び合っていきたいと考えている。

２　講　　師　研究大会の講師として予定していた神戸女子大学の久野和子教授の寄稿文を、研究冊誌に掲載した。久野先生の寄稿文の内容(項目の紹介とする)

1. 現代の子どもを取り巻く環境

２.「第三の場」（子どもたちの良き居場所）としての学校図書館

３.「第三の場」としての学校図書館がもたらすもの

（１）生の安定性や教育の供給を保障する「安全ネット」となる

（２）「主体的・対話的で深い学び」の場となる

（３）国連「子どもの権利条約」 第31条「文化権」を保障する

（４）居場所の創出

（５）文化資本と社会関係資本の創出

＊学校図書館での本や人との出会い、知的な環境などによる文化体験

　　⇒　ⅰ.**文化資本の創出　→　貧困と格差の是正**

＊学校図書館でのクラスや学年を超えた多様な生徒や大人との出会い

　　　⇒ ⅳ.**社会関係資本（つながり）の創出　→　学力の向上**

４.これからの学校図書館

学校図書館は、教室の中の同調圧力や序列化などからの避難所であるだけでなく、良き「第三の場」として機能することによって、上述のように子どもたちの生の安定性や「主体的・対話的で深い学び」の供給を保障する**「安全ネット」**となります。また、良き「第三の場」としての学校図書館は、その多様な資料や利用者との出会いを通して、ⅰ.**文化資本、**ⅳ.**社会関係資本（つながり）**の創出を図ることが可能です。文化資本と社会関係資本は**学力の向上、格差の是正**につながることが学術的に証明されています。価値ある大切な教育資源として学校図書館を見直し、さらに活用してもらいたいと思います。

３　参加者数　研究冊誌を１５０部印刷し、但馬各市町教育委員会、各支部(各校)、高校等に送付した。

４　取り組み(発表予定であった各市町、学校の取組等) ※２校発表のうち１校のみ紹介

1. 地域や公共図書館との連携（連携の中で充実していく学校図書館）

○香美町立香住小学校の取組

朝の読書タイムを利用した「お話バイキング」では、図書ボランティアと連携して行うことで、様々な本の世界と出合い、本を読むことに対する意欲向上に繋がっている。委員会活動では、図書ボランティアとともに図書室マップや分類立て札を作るなど、図書室の環境整備を行ったことで、全校生が自分の読みたい本を探しに本棚を目指すことができている。

1. 読書センターとしての学校図書館（学習活動を支援する学校図書館）

○朝来市立竹田小学校の取組

　　　　学習内容に応じて関連図書コーナーを設置するなど配架を工夫し、図書を活用している。

　　　　　〈１年生〉国語「じどうしゃくらべ」…自動車の本や図鑑（オリジナル図鑑づくり）

「くちばし」…鳥の図鑑（くちばしクイズづくり）

　　　　　〈２年生〉国語「お手紙」…アーノルド・ローベルの本（並行読書）

　　　　　　　　　　図工「スイミー」…レオ・レオニの本（挿絵から技法を広げる）

　　　　　〈３年生〉国語「すがたをかえる大豆」…食べ物に関する本や図鑑（リーフレットづくり）

　　　　　　　　　　社会 「市のようすとくらしのうつりかわり」…昔のくらしの本や図鑑（調べ学習）

(３)　読書へのいざない（読書活動の基地としての学校図書館）

　○豊岡市立八代小学校の取組

具体的な取組として、教師から児童へ①おはなしレストラン②先生おすすめ

のブックリスト、保護者から児童へ①家族の思い出の本紹介、児童から児童

へ①おすすめの本の紹介②図書委員会による本の紹介【新しい本】③６年生

による読み聞かせ、地域の方から児童へ①図書室ボランティアの活動【環境整備】②地域に関連した本の寄贈等の取組を行っている。

　　　(４)　学校図書館の運営

○朝来市立生野中学校の取組

市内の中学校での課題となっているのが、図書館の利用者が少ないということである。そのため、本に対する興味関心を高く持ってもらうためにどうすればよいかということを市内の担当者で話し合い、その各校の取組について紹介した。